

(財)中央義士会編

# 大石内蔵助おおいし くらの すけの生涯

真説・忠臣蔵

中島康夫 著



NPO 法人

# 忠臣蔵倶楽部会報

発行人

〒135-0047

東京都江東区富岡 1-17-1-403

忠臣蔵倶楽部

TEL&FAX 03-3630-1927

編集者 中島康夫

ホームページ

忠臣蔵会館

出版・校正・協力

テレビ製作協力

講演・史跡案内

<http://www.chuushingura.net/>

あなたが知っている「忠臣蔵」の97パーセントは虚構です。

日本人である以上、本当の「赤穂事件」を知っておいてもよいのではないのでしょうか。(オビの裏面へ続く)

三五館・定価:本体1,000円+税

平成10年、翌年のNHK大河ドラマ「元禄繚乱」に合わせて発刊した(財)中央義士会編「大石内蔵助の生涯」の改訂版を平成26年12月14日に刊行する予定である。

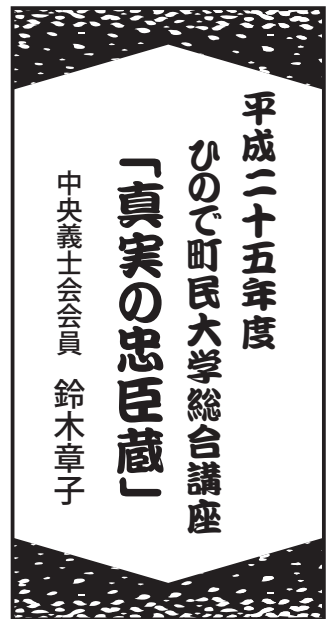
これは、初版の内容が一部で、現代に似あわなくなってきたからに他ならない。

この元禄事件には、陰にプロデューサーがいたのである。陰で動く元禄の大久保彦左衛門。

寛永15年の天草・島原の乱に18歳で参戦。その後、幾度かの徳川期の事件を傍観してきた天野弥五右衛門。

最後は81歳にして、元禄事件に出会い、46士の切腹と共に幕を閉じたのである。

今回は、「忠臣蔵倶楽部編」として発刊の予定である。予定価格1500円。



第一回が、「真実の忠臣蔵」と題して、偶然旧暦討入り日である一月三十日(水)の二時〜四時、小雨がばらつくなか、日の出町役場会議室に於いて、中央義士会理事長中島康夫先生を講師として、日の出町教育委員会主催により、開催されました。一万七千人足らずの町民対象で、内容によっては百名募集に十名程の時もあるというこの総合講座に今回は九十七名の応募という、まずまずの期待感の窺える講座となりました。

二時から五分程の担当者の説明と講師紹介があり、いよいよ講義が始まり、中十分の休憩を挟んだ四時終了を予定した講義時間でしたが、計画されたレジメに沿って最後の質疑応答を含め殆ど時刻通りに、しかも、概論というにはあまりに深く掘り下げた各論的な内容で、実に充実した講義となりました。

冒頭、中央義士会の明治四十一年福本日南により設立以来、現在百五年目の五代理事長でもあり、政治・宗教不問、資料主義であることなど説明し、

今年討入り三百十一年の年であるが年々世の話題性が薄らぐこと、また九十七%虚構の諸現状の問題性、義士会勉強会の風景写真、往年の銀幕俳優の浅野内匠頭墓前法要の写真等に触れ、いよいよ本題元禄事件の始まり「松之廊下」の復元図から柳沢吉保の命に従ったと思われる「梶川筆記」など奥右筆「向山誠齋」写本の現状(国会図書館・東大史料編纂所蔵)による「喧嘩」と「臨場構図」を示しながら「悪口」「喧嘩両成敗」など、徳川幕府二百六十年内十二件の刃傷事件と浅野論や事件当日の江戸城説明、事件報告に「御喜悅御喜悅」と発したとされる天皇家と吉良家の関係、当時の財政事情(四公六民)などにも触れながら、後の「仇討ち」の要因に言及。

矢継ぎ早に深く展開する講義に受講者がついて行けるのかと案じましたが、ここで二時四十分ごろとなり、一旦話題は「最後の忠臣蔵」「四十七浪人」のトンでもストーリーや一ヶ月半ほど異なる「新暦と旧暦」の「現代と当時」の季節感の相違(雪・梅・桜など)へと転換し、一息。折しも東京都知事選候補細川護熙氏(十八代)前の五代藩主細川綱利下屋敷が、大石内蔵助以下十六名の「切腹の地」であること、文京区永青文庫での展示会について、さらに三人の僧侶に当たって、現在正福寺所蔵十二月十三日の大石内蔵助自筆文書コピーを掲げ解説するなどして三時からの十分休憩に入りました。その間、講師にホワイトボードの

揭示物に内蔵助書状コピーにと受講者が群がり、関心を示していました。

赤穂市所蔵「浅野内匠家来口上」のコピーをもとに、いよいよ講義は「討入り」に進みました。当時の吉良邸に百五十名(家来七十九名・足軽二十名・台所五十名)がいた事、そして、討入り直前に門前に立て掛けられた口上書であること、「大学講座だから」と理事長「古文書の勉強を」と受講生の笑いを誘いながらの「口上」の朗読と解説。去年三月内匠の天皇の使いへのご接待の松之廊下刃傷事件が「喧嘩」と記されていること。中国礼記の引用「共不戴天(共に天を戴かない…)すなわち、”死の覚悟”を持つての討入りであったこと。元柳沢家臣であった細井広沢が関わったこと。ナンバースリーの原惣右衛門の筆であること。喧嘩両成敗の否などにより”一年十ヶ月”後の討入りであり、元禄十五年八月が二回あった”閏年”であり一年九ヶ月ではないこと。最後に寺坂吉右衛門が加えられた事情、脱落者への加筆部分についてなど、討入り後細川家お預け時に堀内伝右衛門に頼まれ書いた十五日より以前の口上書も示され”書き込み”比較などにも触れられました。

次に討入り開始時の状況、浪士の装束、三人一組・一向二裏の先方、相互の被害状況、引き揚げの説明に入り具体的なエピソードの数々に笑いが生まれ和やかなうちに佳境を迎えておりました。



その後、細川・松平・毛利・水野の四家にそれぞれ浪士がお預けとなり旧暦二月四日の切腹の日の細川邸鳥瞰図（安場図・大野図）が示されながらの邸内の位置・配置、切腹図と状況の解説。泉岳寺への丸棺四十五遺体の埋葬ほか西本願寺と曹溪寺各一名の埋葬、大石と浅野家の婚姻関係、当時の五代將軍綱吉の母桂昌院が高野山天徳院に四十七士の位牌を納めたこと、綱吉自身は四十六士を助けようとするも荻生徂徠の提唱により「切腹」をいい渡した。そして三百年余りを経て現在、高輪旧細川邸での大石ら十七名の「切腹の地」が保存・整備され、中央義士会により管理されている事などに触れ講義を終えました。

討ち取った御印を携え両国吉良邸から主君浅野の墓前報告への高輪泉岳寺まで引き揚げた当時を偲び、本年二月二日（日）に実施される中央義士会「愛好会引き揚げルートを歩く会」の簡単な紹介の後、三時五十分質疑応答に入り、七名ほどの質問がありました。

\* 討入り情報は広まっていなかったのか？

\* 吉良の炭小屋発見は本当？

\* 切腹時は白装束ではなかったのか？

\* 山・川の合言葉は本当？

\* 浅野家の評判と吉良家とは？

\* 風さそう・・・の辞世の句は本当？

\* 改易後から討入りまでの経済援助は？

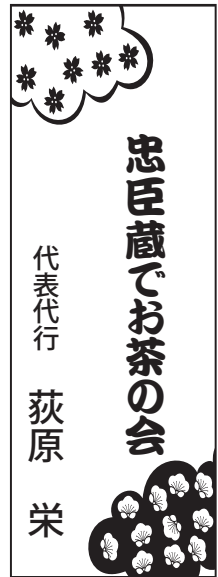


など、講義の緊張を超えた相互のフリートークにより一層の具体性が与えられ、十分延長したものの、この時間の意義深さと今回の大学講義全体の意義深さを思いました。

東京の山間の小さな町の、今回の講義に蔭られた九十七の種が今後少しでも芽吹きその「真実の芽」が育ってくれることを願っています。

中央義士会から会場お手伝いとして、  
亀谷孝子と鈴木章子が参加しました。





平成二十六年三月九日、港区の港南区民センターにおいて中央義士会主催「忠臣蔵でお茶」の会が開催されました。

これは中島理事長の発案で、気楽にお茶を飲みながら忠臣蔵を楽しく語ろうという主旨で行われました。

近くのコーヒー店からコーヒーを運んでいたとき、お茶菓子も用意され、ホワイトボードには昔の映画のポスターなどが張られて、和やかな雰囲気の中でスタートしました(写真一)。会員には、事前に、珍しい忠臣蔵に関する書画など所有していたら、持ってきていただきたい旨通知していただきましたので、何名かの方が大きな風呂敷包みを抱えて参加されました。

最初に中島理事長の挨拶に続いて忠臣蔵の映画や演劇の話があり、途中で、会員が所蔵している貴重な絵画の披露が始まりました。

最初は、長井家に古くから伝わっている、大石内蔵助の掛け軸が披露されました(写真二)。

長さ2メートルほどの軸装された絹地に、上に蘭の絵が描かれ、下に四文字「為香葉撰」の賛、その横に「良雪 可笑」の文字が見られます。良雪和尚は、赤穂城引き渡しの際に、大石内蔵助に死を持ってすれば何事もできる、と言った人物で、その後の内蔵助の行動に大きな影響を与えた人物です。可笑は内蔵助の雅号です。

長井家は、堀部安兵衛の姉の嫁ぎ先で、代々新潟新発田市で続いている旧家です。



写真一 勉強会の模様

続いて、赤穂義士勝田新左衛門の御子孫の勝田家が所蔵している、多くの掛け軸が披露されました。中でも、大石内蔵助と忠僕八助を描いた「大石内蔵助自画像」(写真三)はいくつもの資料に載っている有名なものです。この絵の説明は赤穂義士事典に詳しいのでそちらをお読み下さい。さらに中央義士会の創始者福本日南の自筆の書も披露されました(写真四)。日南の字は、特徴のある鉤字です。



写真四 福本日南自筆書



写真三 大石内蔵助自画像



写真二 可笑絵

遠くは広島、静岡、群馬などから来られた参加者もおり、貴重な書画が見られた、大変有意義で楽しい会となりました。書画を持参いただいた、長井寛三様、勝田芳造様にお礼を申し上げます。なお、お二人とも、NPO法人忠臣蔵倶楽部並びに中央義士会会員です。



# 第十一回忠臣蔵愛好会の報告

中央義士会理事 柿崎 輝彦

恒例の中央義士会主催赤穂義士引揚ルートを、昨年に引き続き二月初旬(二日)に開催した。

昨年は直前に忠臣蔵関連のイベントなどもあり気運が高まるなか開催され大盛況であったが、今回は新聞掲載もなく事前告知に一抹の不安があったものの、遙か忠臣蔵の故郷赤穂や静岡など遠方からの申し込みもあり、三〇名を超す忠臣蔵ファンにご参加いただき好天のなか挙行了した。

義士引揚ルートについては、(財)中央義士会発行の「赤穂義士の引揚げ 元禄の凱旋」に詳しく、この書を参考に出来る限り史実に近いルートを辿った。

途中脱落者もなく無事泉岳寺へ到着。都合で参加出来なかった中島理事長とも合流し、近くの史蹟「大石内蔵助等終焉の地」を訪れた。

ここは元禄当時細川家下屋敷で、吉良邸討入り後の大石内蔵助等十七名を預かり、彼等が切腹をするまでの約五十日間滞在した場所である。広大な屋敷跡は、明治以降海軍病院や皇室御用地を経て戦後都営アパートや一般住宅が建てられ現在に至っている。その一画に切腹の地はある。

聖地ともいえるこの場所は、時の当主細川越中守綱利の命により守られ、大正七年東京市(現東京都)指定旧跡となる。その後、昭和三十三年に敷地の管理を港区教育委員会から、中央義士会に委嘱されることとなり、早速同会によって造園整備がはじまった。昭和三十五年の完成時には百名を超す多くの関係者が出席し、明治神宮の奉仕に

よる荘厳かつ恭しい盛大な式典が執り行われた。その時の模様は翌日の読売新聞などでも写真入りで大々的に紹介されている。

この切腹の地は、普段は厳重に門扉が閉ざされ自由に立ち入ることは出来ないが、前述の経緯から同会が鍵を管理しており、今回も参加者全員にご入場いただいた。大石等が切腹に臨み座した場所には、半畳ほどの平らな石が配置されており、今でもその位置を正確に知ることが出来る。これらについては、平成二十三年発行の「大石内蔵助ら切腹の地」に詳しい。

聖地での質疑応答や記念撮影を終え、再び泉岳寺に戻り二日早い命日の義士墓前に頭を垂れた。

じつは今回のイベントに際し、「大石内蔵助等終焉の地」を昨年同様有志らで清掃した。

聖地周辺には銀杏をふくむ落葉樹が多く生息しており、とくにこの時期は落ち葉で地面が全く見えないほどだった。一年で最も寒い時期だが、落ち葉拾いが進み、敷地内がきれいになるにつれ、一同の心も洗われていった。そこには、三百年以上大切に守られてきた聖地を次の世代にも確実に引き継いでいきたいとの思いや願いがあった。

来年からは、この時期の清掃奉仕を恒例行事にしていきたいと考えている。



大石内蔵助ら切腹地にて



赤穂浅野家上屋敷前にて

## 「討入口上書」に関する一考

中央義士会理事 柿崎輝彦

元禄十五年十二月十四日未明、大石内蔵助等旧赤穂浅野家家臣四十七名が吉良上野介の屋敷へ討入った。その際に趣意書を文箱に入れ玄関前に立て置いた。それが「浅野内匠家来口上」通称「討入口上書」である。

「浅野内匠家来口上」

去年三月内匠儀

伝奏御馳走之儀付 吉良上野介殿江 含意趣罷在候処 於御殿中当座難忍儀御座候歟 及刃傷候 不辨時節場所働 不調法至極付 切腹被仰付 領地赤穂(城) 被召上候儀家来共迄畏入奉存 請上使御下知領地差上 家中早速離散仕候 右喧嘩之節 御同席御押留之御方在之 上野介殿討留不申 内匠頭末期残念之心底 家来共 難忍仕合御座候 对高家御歴々家来共挾鬱憤候段 憚奉存候得共 君父之讐不可共戴天之儀難黙止 今日上野介殿御宅江推参仕候 偏継亡主之志趣之志迄御座候 私共死後 若御見分之御方御座候はば 奉願御披見如斯御座候

浅野内匠頭長矩家来

大石内蔵助他連署名

元禄十五年十二月日

この「討入口上書」は討入り時、頭立(幹部)た

る数人も懐中していた。

起草は大石内蔵助の命によるもので、此度の討入りの理由や目的が明確に記されている。簡潔でありながらもことのあらましが事細かに綴られており、全体を通し名文といえる。

中でも、君父之讐……の下りにについては(出典…礼記の父之讐共不可戴天)、本来の語句である父を君父に書き換えたことで、のちに問題が生じないかを憂慮した堀部弥兵衛が、日頃堀部親子と剣術を通じて親交のあつた儒臣細井広沢に相談する念の入れようである。それに対して細井広沢は、

「不苦也 大事をなすには文章によるべからず君の仇と書きて随分しかるべし」

とのお墨付きをつけたとされている。口上書の草案は堀部弥兵衛金丸とされてきた。その根拠は、同時期に作成された「起請文前書」や「人々心得之覚」に幹部として弥兵衛が深く関わっていたことや、自身が遺した「堀部金丸覚書」内の「残書」とこの「討入口上書」内の文章文言が酷似しているとの理由からである。

この件については以前から周知の事実であったが、近年では佐藤誠校訂「新訂 堀部金丸覚書」(平成十三年発行)の中で、八木氏の研究によって明らかにされたとあり、その内容は赤穂市発行の「忠臣蔵 第一巻」の三章に詳しく記述されていて、検証についても納得性が高い。

八木氏とは故八木哲浩神戸大学名誉教授のことで、兵庫県内の地域史の編纂を数多く手掛け、赤穂市発行の「忠臣蔵」や「赤穂市史」に執筆者としても関

わった方である。しかし此度、この八木氏も提唱した堀部弥兵衛草案説に疑義が生じたため、あらためて検証を施してみる。

討入りに参加出来なかった旧赤穂浅野家臣の一人に萱野三平重実がいる。四十八番目の義士などと称され、事件当時二十七歳。

その萱野三平が、赤穂浅野家へ仕官したのは、生類憐みの令が発せられた貞享四年(1687年)、三平十三歳の時である。

萱野家は古くから摂津國萱野村(現大阪府箕面市萱野)の豪家で領主でもあったが、徳川の時代には大島氏の領地になっていた。三平の父萱野七郎左衛門重利が仕えていた領主旗本大島出羽守義近と浅野内匠頭長矩が、儒学者で兵学者でもあった山鹿素行の同門だった。とくに素行が赤穂浅野家に一時期仕えていた頃から両家が昵懇であったこともあり、大島出羽守が七郎左衛門の三男三平を赤穂浅野家に推挙したことで近侍に列せられ中小姓として仕えた。

そして三平は、元禄十三年の内匠頭最後の参勤交代にお供し、赤穂から江戸に出府していた。そのため松之廊下事件当時は江戸在勤であった。

萱野三平で有名な出来事といえば、元禄十四年三月十四日、主君内匠頭刃傷の知らせを第一の急使として、同僚の早水藤左衛門とともに江戸から赤穂へもたらしたことが挙げられる。三平はそのまま赤穂に留まり大石等の盟約に加わった。その他にはとくに目立った活躍はなく、赤穂開城後は、郷里摂津國萱野村の実家に身を寄せ、大石内蔵助に随い仇討の

時期を窺っていた。

大石内蔵助が、堀部安兵衛ら江戸急進派鎮撫の目的で江戸へ下った第一次江戸下向から山科に戻ってきた直後の元禄十四年十二月十一日、吉良家は上野介の養子義周への家督相続が叶い、これにより上野介は隠居の身となり今後処分がなされないことが確定した。

この突然の事態に、同志等の動揺を危惧した江戸在住の中心的存在であった原惣右衛門と大高源五は、次なる方針確認のために急遽京上りしてきた。早速年が明けた正月十一日に山科で会合がもたれた。

未だ仇討の時期ははっきりしないものの、取敢えず急進派をはじめとする江戸在住の諸士鎮撫のため、再び大石側近による江戸派遣が決定した。その候補に三平も挙げられていたのか、吉田忠左衛門・近松勘六との江戸下向の時期がいよいよ近付くなか、三平は自身の進退を決めあぐねていた。

一方、三平の父七郎左衛門も三平の本心を見抜くことが出来ずにいた。

一月十三日、三平は菅野村から程近い新稲の庄屋吉田家に嫁いでいた姉小きんを訪ねた。

小きんは三平よりひとまわり上で当時四十歳、三平にとって、もつとも信頼厚き姉であった。別れ際に、「姉様、とんとおさらばでございませう」との言葉を残して別れたと伝わっている。

その晩、実家で団欒のひとつを過ごした三平は、夜半自室に戻り忠と孝の間で苦しみ抜いた末、十四日未明自刃して果てた。享年二十八歳。

十四日は旧主浅野内匠頭の命日である。

三平は父七郎左衛門と大石へそれぞれに遺書を残している。

自刃直前に綴られた父七郎左衛門へ宛てた遺書が次である。

「去年亡主伝奏御馳走之儀付 吉良上野介殿  
江如何様之御鬱憤被成御座候哉 於殿中被及  
刃傷候処 御同席之御方々御押留被成不被遂  
御本意御生害之節嘸御残念可被成御座段我等  
式迄難忍仕合奉存候故 去年赤穂被召上候節  
より同志申合儀儀有之 時節を考此度罷下候  
に付 御暇乞をも不仕罷下候而は後日之思召  
も恐多不孝之沙汰可申処 心外之儀存御暇乞  
に参上仕候得は達而御留被成段御尤之思召入  
難有奉存候得共 神文に而申合儀兎角難申上  
御心逆申事候 思食随候得忠義忘申似たり  
忠義立可申存候得思召違不孝之罪猶可被重候  
依之自殺仕候 一通残置候間於山科大石内蔵  
介早々御届可被下候 且又此度同道申合候衆  
尋来可申候 右之衆中申置度候得共事急候間  
無其儀候 宜御伝可被下候 以上  
正月十四日  
菅野三平

#### 七郎左衛門様」

この遺書と前出の「討入口上書」を比較してみる。  
書き始めの「去年亡主伝奏御馳走之儀付・・・去年  
赤穂被召上候までの傍線の文体及び構成が「討入口  
上書」の出だし部分に酷似していることが判る。更

に両書とも内匠頭が御同席の方に押留められた事により吉良を討ち留めることが出来なかったことを挙げています。

この部分は、八木氏が「堀部金丸覚書」をもって論じていた堀部弥兵衛草案説の解説内容とほぼ同じである。但し「討入口上書」と「堀部金丸覚書」は、討入りを前提に綴られた書である一方、三平の遺書はまだ仇討の方針が定まっていないうちの時期のものであり、その性質や目的も大きく異なるものである。次は大石へ宛てた遺書である。

「為年始之御祝意先達奉呈愚札候 然旧冬以来吉田忠左衛門・近松勘六申合当春江戸可罷下奉存候処 愚父七郎左衛門儀不知其主意強制止之候 最本意申聞候は却而喜悦可仕とは存候得共 御手前様差上置候神文之手前御座候得は 仮令父子之間にても此儀口外難仕君父忠孝之間に於聊当惑仕依之自殺仕儀 最吉田近松江以別紙不申候間從御手前様可然奉憑候 恐惶謹言  
正月十三日  
菅野三平

#### 大石内蔵助様」

こちらの遺書の日付が十三日であることから、先  
に大石宛ての遺書を認め、十四日未明に父親宛ての遺書を書き残したことが判る。

この大石宛の遺書は、十三日に菅野家下男に持たせ、山科の大石に届けられている。  
翌朝家族によって三平の死が確認された。介錯も



なく、それが壮絶な死であったことは想像に難くない。遺書には自殺の理由が「君父忠孝之間に於て聊当惑仕依之自殺仕」と明確に綴ってある。

ここで注目したいのが「討入口上書」の君父之讐……の下りである。

大石へ宛てた遺書には討入りの大義名分が、君父之讐共不可戴天之儀難黙止であるとしている。

再度、父七郎左衛門宛ての遺書を見直してみる。

文中に君父忠孝の文言そのものはないものの、御暇乞をも……から後半にかけての文章で、更に君父に対する思いをより具体的に綴っていることが判る。このことから、堀部弥兵衛は「討入口上書」に敢えて「父」ではなく「君父」の文言を挿入すべく態々細井広沢に相談したことが窺える。

三平自刃の報は、父七郎左衛門により自刃当日の書簡で三平の遺書とともに翌々日の十六日には山科の大石のもとへ届いている。

「愚子三平儀 今十四日自殺令候 其趣意如何と言事不存 次に貴辺へ一通也と遺書を残し置之間悲歎を御届申上候以上

正月十四日

菅野七郎左衛門

大石内蔵助様

その後、七郎左衛門と大石との接触については、現在それを証明する史料も無く不明であるが、大石のもとには大石宛ての遺書とともに七郎左衛門宛ての遺書（勿論写し）も届いていたであろうことは推

察される。

一説には、三平の四十九日の忌が明けて、父七郎左衛門自身が直接山科の大石を訪ねたとの文献も見られる。

以上により、通称「討入口上書」は時系列からして堀部弥兵衛の「残書」を草案としたとするより、三平の二通の遺書を参考に作成されたと考ええるほうが自然である。言い換えれば「堀部金丸覚書」内の「残書」自体も三平の遺書を参考にした可能性が高いということになる。

結果として、「討入口上書」作成の過程において、多くの研究者が三平の遺書の存在及びその内容を見落としていたことになり、近年八木氏も提唱した堀部弥兵衛草案説は全てではないものの、主要部において覆ることとなる。

さらに補足すると、討入り後細川家下屋敷に預けられていた大石内蔵助は、細川家の世話役である堀内伝右衛門に三平のことを語っている。

そのことが「堀内伝右衛門覚書」に残されている。

「或時内蔵助へ我等申候は此頃町人共の咄にて承り申候が京都菅野三平と申仁書置など被仕自害被仕候咄承り候由候へば内蔵助被申候はそれは皆共京都に居申候時分の儀にて御座候存生にて居申候へばいかにも今度の一置に加はり申す志の者と咄被申候其後何れもの咄にて三平父京都浪人にて居被申候故三平を何方へか養子に遣候て奉公をさせ申ことと談合仕被申候に付三平志に叶不申とて書置仕られ内匠頭様御一周忌

に自害仕果被申由若き衆などと咄被申候事」

とあり、内匠頭一周忌に自害したとの聞き間違いはあるものの、三平が生きていれば必ずや今回の討入りに参加していたであろうことを述懐している。

さらに大石は、三平の遺書を常に懐中していたときさらにおり、大石が三平を同志として如何に高く評していたかが窺える。故に堀部弥兵衛らによって「討入口上書」に三平の遺書の一文を使用したことは、三平が同志であるとの意の表われでもあり、その証ともいえる。

ところであまり知られていないが、三平の父七郎左衛門は、三平が自害してから僅か半年後の八月六日に息子三平の後を追うように亡くなっている。それは仇討が決定した七月二十八日の円山会議直後のことである。享年七十四歳。

三平が自刃して果てた日、亡骸を発見して驚き騒ぐ家人等を制止し、

「このことが他へ聞こえてはいろいろと不味いことにあるやも知れず、頓死として届けるように」と指示している。

同時に大石宛ての遺書にある「愚父七郎左衛門儀不知其主意強制止之候 最本意申聞候は却而喜悅可仕とは存候得共」の一文に触れたときに、三平の全てを悟ったはずである。

すでに隠居の身ではあったものの、仕えていたのは吉良と同じ旗本の大家。自身も重鎮の家老格にあった。息子三平の遺書から自殺の理由を十分に理解していた。本来であれば、大島家あるいは奉行所



へ届け出るべき立場にあったが、それをせず七郎左衛門は他界した。

同志等との仇討計画を父子の間においても口外せず、自死の道を選んだ三平は、武士の道を全うしたと言える。加えて父七郎左衛門の周辺を情報源とする仇討計画も一切世に漏れることはなかった。これらの事実からしても、父七郎左衛門も三平同様、武士の道を全うしたと言える。

赤穂の大石神社では、創建当初から四十七士と共に中折の烈士として「萱野三平」を御祭神としている。のちに赤穂浅野家歴代城主である浅野長直・長友・長矩が合祀されるが、それは第二次世界大戦終了後のことである。また、泉岳寺の義士墓域にある刃道喜剣信士の墓は三平の招魂墓であり、三平は常に四十七士と同じに列せられている。

三平の実家邸宅は明治に入り解体されたが、長屋門と土塀の一部は修復され、大阪府指定の史蹟として今も箕面市萱野の旧西国街道沿いに萱野三平記念館「涓泉亭」として保存されている。そこには、三平が自刃した部屋もそのままに残されている。

辞世の句は、

「晴れ行くや 日ごろ心の 花曇り」

合 掌



三平自刃の部屋



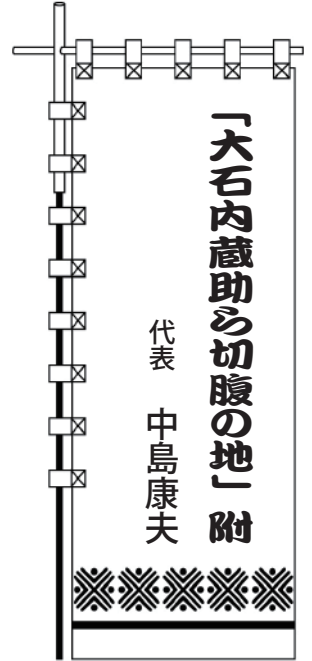
涓泉亭



三平木像



三平墓



平成二十三年十二月、小生は「大石内蔵助ら切腹の地」という冊子を発刊した。

その所以は、①細川家白金下屋敷の屋敷図が発見されたこと、②昭和三十五年期の下屋敷工事図面を入手したこと、③切腹図の原図が発見されたこと、によるものである。

その際、小生は発見された下屋敷図（A図）に示されていた「方位」に疑問を抱きながら掲載に踏み切った。意見や苦情を想定しながら、万分の一の不安を秘めて発刊したのは事実である。しかし、この疑問や不安を、いつかは発表しなければと思っていた。

冊子二十七頁に示した細川家白金下屋敷図（A図）の方位が正しいかを判断しなければならぬ。正直、この図（A図）の方位が正解であるとしたら、北側の等覚寺、魚籃坂方面に表門を接しなければ、方位が「北」に合致しなくなる。そこに気がついた研究者は何人いただろうか。

ここで、北側の魚籃坂方面に表門を合わせるのが正しいと主張される研究者がいたとしたら、そ

の方々は、方位以外のことで、そのことを証明しなければならなくなる。

そこで、平成二十三年の発刊前、小生は屋敷図を縮小して、切り貼りをして、実際の住宅図に合わせて符号してみた。切り貼り符号に数日かけたほどである。

その結果、東側（等覚寺側）に合わせると下屋敷「御地震間」などが、現在の高松中学の崖下に突き出してしまうのである。決定的なのは、現在の「切腹地」と全く合致しなくなるのである。

反面、表門を現在のバス通り二本榎通りに合わせると、切腹地も含めて合致するのである。

そもそも、今回の白金下屋敷の図面の出所は、平成五年四月二十日発刊の城郭の侍屋敷古図集成「熊本城」（著者北野隆）であった。

この著作は、熊本細川家の城や屋敷図の集大成で、勿論細川氏の江戸屋敷も全て含まれているものである。

著作の中の江戸屋敷図は全て原色で、江戸時代の熊本藩御用大工横山作兵衛の設計図が掲載されていたが、なぜか白金下屋敷の図だけが、現代人（北野隆教授と思われる）によって描き直された図が掲載されていた。

北野教授は、その理由として、「この指図は建物の平面を色紙に描き、それを台紙に貼り付けている。ところがこの指図の保存状態が悪く、建物の平面を描いた色紙が台紙からはがれており、御庭部分、裏向建物は、つきり分からないのが現状である」

と説明している。従って、描き写した際、方位が間違えられたと見るのが自然と思われる。

A図を精査すると、大石ら十七名が切腹した「切腹地」の背後には、玉川上水から水を引いた大きな池が描かれている。小生は、その池の底が現在の高松中学ではないかと推察するのである。そのことを恰も示すように、校庭には切腹にまつわる「血洗の池」が残されているのが現状である。

江戸時代の切腹、特に武家屋敷の切腹場は主に「水はけのよい所」を選ぶものである。

元禄十六年二月四日の大石らの切腹の場も細川家臣堀内伝右衛門によれば、

「芝の大書院御ぶたいの右わき御手水石の向こう」とあり、大石らの切腹の右脇には、大池から流れる小川が流れていた。

つまり、大石らは北側を向いて切腹して果てたのである。

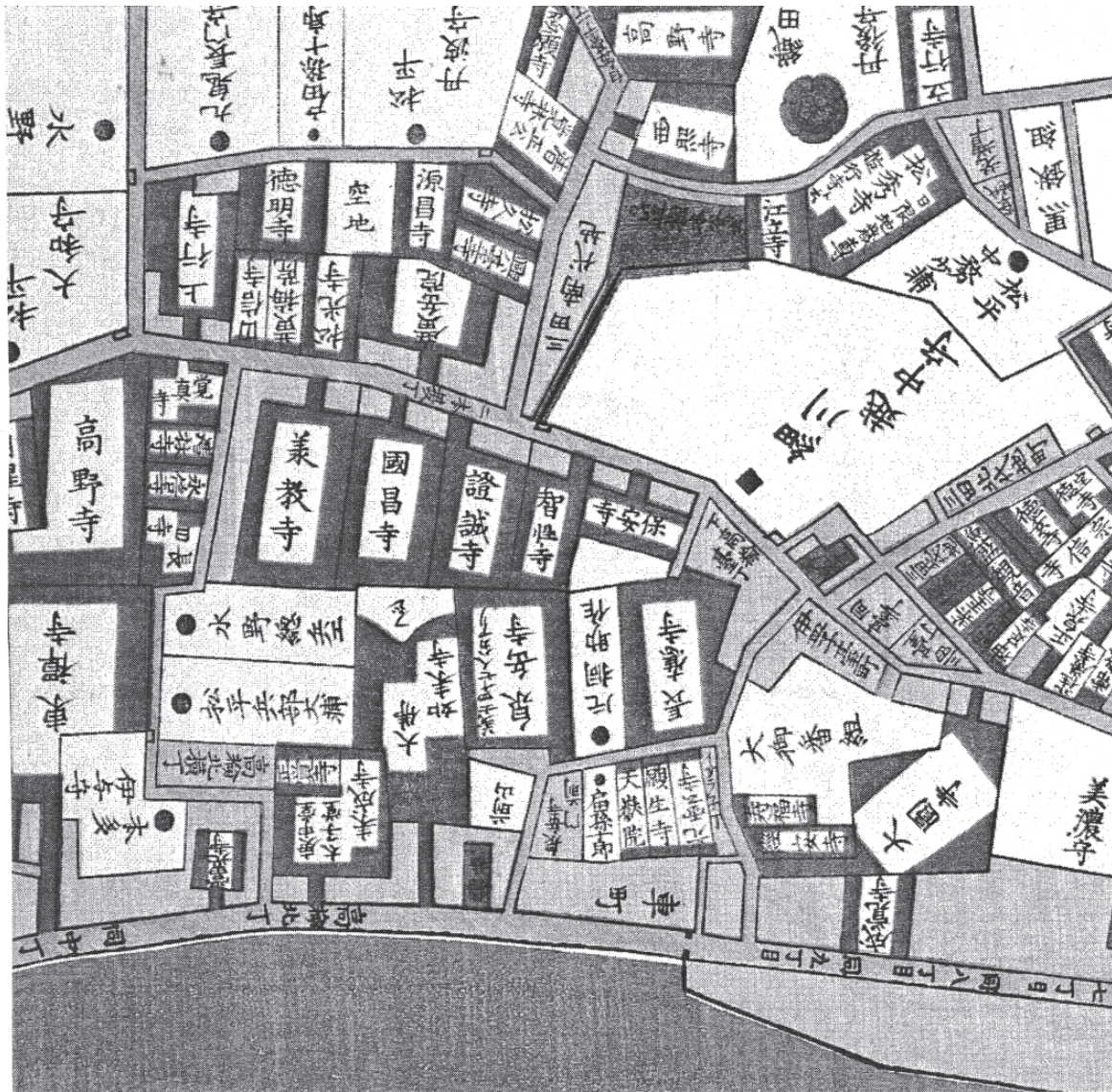
この先、高松中学と「切腹地」との段差の調査、現在の「血洗の池」の由来など進める必要がある。まずは、中間報告といったところである。

平成二十六年五月六日



明治19年高輪西台町の旧細川家下屋敷跡（一部が海軍病院になっている）





【A図】 切腹時の下屋敷図（■印の所が切腹場）  
 (株) 至文堂発行「熊本城」より



神◎ 白金屋敷

# 第2回忠臣蔵通3級検定試験問題

## [申込方法]

- 検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX番号並びに、第2回3級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛てFAXまたは郵送でお送り下さい。FAXをお持ちの方は、できるだけFAXでお願い致します。折り返し受験要項をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403

NPO法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

- 受験要項に従って、検定試験料をお振り込み下さい。振り込みで受験申込となります。
- 受験申込された方に問題の解答票をお送り致しますので、解答票に解答をご記入しお送り下さい。
- 合否は11月になってからお知らせ致します。

## [注意事項]

- 合格点は80点です。24問以上正解で合格となります。
- ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- 受験料は締め切りの1ヶ月前までにお納め下さい。
- 最終提出日は、平成26年10月末日です。

平成26年6月

第1問	現在、赤穂義士の墳墓は泉岳寺にあります。墓域に基石は何基ありますか。 ① 45基                      ② 46基                      ③ 47基                      ④ 48基
第2問	吉良邸討入り後、赤穂義士は2月4日に切腹することになりますが、何名の方が切腹したでしょうか。 ① 44名                      ② 45名                      ③ 46名                      ④ 47名
第3問	松之廊下事件から討入りまで、実際何年何ヶ月期間があったのでしょうか。 ① 1年12ヶ月              ② 1年11ヶ月              ③ 1年10ヶ月              ④ 1年9ヶ月
第4問	赤穂浅野家は、松之廊下事件の時は、士分の侍は何名くらい在籍していたでしょうか。 ① 380名                      ② 350名                      ③ 308名                      ④ 408名
第5問	大石内蔵助と妻りくとの間の実子は何名いたでしょうか。 ① 3名                          ② 4名                          ③ 5名                          ④ 6名



第6問	赤穂浅野家での大石内蔵助家の石高はどのくらいあったでしょうか。 ① 1300石                      ②1400石                      ③1500石                      ④1600石
第7問	赤穂義士引揚げ順路は、現在の距離でおおよそどのくらいあったでしょうか。 ① 5Km                              ②9Km                              ③12Km                              ④15Km
第8問	大石内蔵助の幼名でない名はどれでしょうか。 ① 竹太郎                              ②松之丞                              ③喜内                              ④犬千代
第9問	松之廊下事件は、関ヶ原の戦いよりおよそ何年後に起きたのでしょうか。 ① 100年                              ②130年                              ③150年                              ④260年
第10問	大石内蔵助と妻りくとの年の差はどのくらいでしたでしょうか。 ① 5歳                                      ②10歳                                      ③15歳                                      ④20歳
第11問	寺坂吉右衛門の墓といわれているものは、日本全国にいくつあるでしょうか。 ② 3基                                      ②8基                                      ③13基                                      ④17基
第12問	阿久利姫（後の瑤泉院）の松之廊下事件時の年齢は、いくつだったでしょうか。 ① 23歳                                      ②33歳                                      ③43歳                                      ④53歳
第13問	中山安兵衛応庸が高田馬場の決闘で倒した相手は、何人だったでしょうか。 ① 3人                                      ②8人                                      ③13人                                      ④180人
第14問	四十七士の中で一番の酒飲みは、どなただったでしょうか。 ① 大高源吾                              ②菅谷半之丞                              ③堀部安兵衛                              ④神崎与五郎
第15問	元禄15年7月28日の円山会議の出席者は、何名だったでしょうか。 ① 10名                                      ②15名                                      ③19名                                      ④25名
第16問	大石内蔵助の残した「金銀請払帳」という資料は、現在どの施設で保管されているでしょうか。 ① 東京大学                              ②江戸東京博物館                              ③箱根神社                              ④赤穂市大石神社
第17問	四十七士が討入りに持っていかなかった道具はどれでしょうか。 ① かなづち                              ②斧                                      ③かすがい                              ④のみ
第18問	次の方の内、実在した方はどなたでしょうか。 ① 戸田の局                              ②おかる                                      ③堀田隼人                              ④村上喜剣

第19問	討入りがあった時、生存していた方はどなたでしょうか。 ① 桂昌院                  ② 水戸黄門                  ③ 矢頭長助                  ④ 千坂兵部
第20問	討入りを待たずして川崎の平間村より逃亡した同志が二人おりました。一人は矢野伊助ですが、もう一人はどなたでしょうか。名前を書いてください。 [                                  ]
第21問	討入りの協力者に羽倉齋という方がおりましたが、後年名前を変えます。どの方でしょうか。 ① 荷田春満                  ② 細井広沢                  ③ 北島雪山                  ④ 山田宗備
第22問	元禄事件に三姫という方が登場しますが、この方の夫君はどなたでしょうか。 ① 津軽政兜                  ② 吉良義央                  ③ 徳川綱吉                  ④ 上杉綱憲
第23問	討入りが終わってから大風呂敷を買った方はどなたでしょうか。 ① 原惣右衛門                  ② 潮田又之丞                  ③ 富森助右衛門                  ④ 吉田忠左衛門
第24問	下記の討入りした方の中で、妻のいた方（妻帯者）はどなたでしょうか。 ① 間十次郎                  ② 近松勘六                  ③ 勝田新左衛門                  ④ 岡野金右衛門
第25問	下記の討入りした方の中で、一番裕福であった方はどなたでしょうか。 ① 大石瀬左衛門                  ② 不破数右衛門                  ③ 竹林唯七                  ④ 杉野十平次
第26問	浅野家の先祖の方で「長吉」という方がおりましたが、どなたのことでしょうか。 ① 浅野長重                  ② 浅野長政                  ③ 浅野又右衛門                  ④ 浅野幸長
第27問	「小満」とはどなたの母のことでしょうか。 ① 萱野三平                  ② 三村次郎左衛門                  ③ 寺坂吉右衛門                  ④ 奥田孫太夫
第28問	寺坂吉右衛門の「密命」を証明する資料（手紙）はあるのでしょうか。 ① ある                  ② ない
第29問	赤穂義士関係の寺院で、現在では全く跡形もなくなってしまった寺院がありますが、どれでしょうか。 ① 瑞光院                  ② 遠林寺                  ③ 安養寺                  ④ 長福寺
第30問	新潟県と関係のない四十七士はどなたでしょうか。 ① 堀部安兵衛                  ② 中村勘助                  ③ 寺坂吉右衛門                  ④ 片岡源五右衛門

●問題の解答用紙は、試験を申し込みされた方にお送り致しますので、その用紙を用いて解答をお返し下さい。

●中央義士会の過去の出版物でも誤記はありますので充分確認の上、解答して下さい。



NPO法人忠臣蔵倶楽部

理事 富岡 克

東京都中央区在住

法耀山高光寺

赤穂市加里屋一八六一

NPO法人忠臣蔵倶楽部

役員 成清寛徽

千葉県浦安市在住

NPO法人忠臣蔵倶楽部

理事 三輪三郎

川崎市麻生区在住

NPO法人忠臣蔵倶楽部

代表代行 荻原 栄

中央義士のホームページは <http://www.chushingura.net/> です

歓迎 赤穂剣道連盟様  
山鹿灯笼祭剣道大会

(皆様のお越しをお待ちしております)  
山鹿剣道協会  
平成堀内組

中央義士会

理事 奥中敏之

大阪府堺市在住

NPO法人忠臣蔵倶楽部

役員 勝田芳造



紋「蛇の目」

足立区在住

NPO法人忠臣蔵倶楽部

理事 金子 堅一

東京都荒川区在住

中央義士会 静岡支部発足

支部長 遠藤信夫

(理事)

静岡県富士市在住

中央義士会古書部

「忠臣蔵」以外の古書でも

喜んで引き取りに伺います。

神田文泉堂(小西)

〇三―三三九四―五三四八

NPO法人忠臣蔵倶楽部の年会費は 四〇〇〇円です。

ただし、中央義士会にも入会されている方の年会費は

役員 二四〇〇円、一般会員 一一〇〇円です。

## 映画「47RONIN」を見て

ルーマニア在住中央義士会会員 津嶋 冠治

先般見た映画「47人のローニン」に関する私の感触をお伝えします。

映画は3Dで制作費は175億円で売り上げはその6,7割で赤字映画。中身は芸術映画としては最低の部類で、「コンピュータゲームのコンバットゲームとして見る、ないし楽しむならなんとか」という映画で、観客の半分は「くだらない」で一致しているようで、なんとか見た人も、単なる「興味範囲」ないし「ゲーム的」興味に、ないし「映画館に金を払った以上は見なければ致し方なし」という態度でした。

制作は米英ハンガリーで、批評家の評判は売り上げ以下に厳しく、恐ろしい低い評判でした。私が見ても「見るに堪えない代物」でした。驚きかつ腹立たしいことは、日本で日本人がそれなりに見に行ったという話です。筋は、奴隷混血日本人のカイ(魁)のキアヌ・リーブスが真田広之扮する大石とともに浅野忠信の吉良に復讐するはなしですが、江戸城は出てこず、山深き3D的な景色の中の、天守閣が何個もある赤穂城で、あぐりを強姦しようとしていた吉良を大石がとどめたことで一緒に赤穂に来ていた綱吉を怒らせ、切腹させられた主君長矩への復讐を、大石とカイが、家来45人とともに一緒に果たすという荒唐無稽な忠臣蔵ないし赤穂事件です。

衣裳は中国朝鮮日本の入り混じりで、ローニンのいでたちは戦国時代武将的。随所に竜などの怪物が大石、カイと格闘します。まさにコンバットゲームです。

不愉快なのは、映画冒頭で日本の地図が示され、当時の日本歴史が解説されていることで、観客に史実に基づいているとの錯覚を植え付けていることです。

「ハリウッドに抗議すべき」だという友人たちの言葉に対してわたしは「いや、むしろ同様な映画で返礼すればいいのでは。たとえば、大阪、東京に原爆を落とそうとした米軍パイロットは間違えて、サッカーのオウン・ゴールのように、ニューヨークとワシントンに落としてしまったという、アメリカ人の馬鹿さ加減を見せる映画をね」と答えたら喜んでいました。

### 「大石頼母助の系譜」販売中

浅野家の始まりから、浅野家に仕えた大石家、さらに、笠間浅野家と笠間出身の赤穂義士、また、幕末に活躍した、浅野梅堂まで書かれた本はこれ一冊です。

ご注文は、郵便振込で NPO法人忠臣蔵倶楽部

〇〇一九〇〇—三四六〇三八へ。「大石頼母助の系譜」

とお書き下さい。一冊 千円＋送料八十円です。

### 編集後記

#### (一) 旧細川邸の鍵の件

特別に見学したい方、テレビ・映画関係者は中央義士会に直接ご相談下さい。以前は、悪童どもがいて油断をしていたスキに合鍵を作られて、こちらが難儀したことがあります。その悪童どもは自分たちのしたことは棚に上げて知らん存ぜぬ顔で、人を集めては忠臣蔵へボ談義をしています。その低知識・低レベルとても聞かれたものではありません。旧細川邸は泉岳寺と同じ日本人の聖地です。その聖地を侵してはなりません。なのに悪童どもは鍵を二個付けたことにブツブツ言っておりませぬ。

この罰当たりメ。

編集者

中島康夫(企画・編集・検証)  
荻原 栄(編集) 柿崎輝彦(編集)  
富岡 克(校正) 三輪三郎(校正)

(株)正大印刷社 (印刷)